
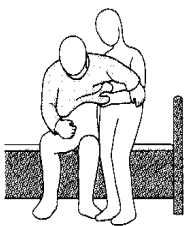

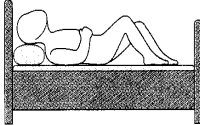
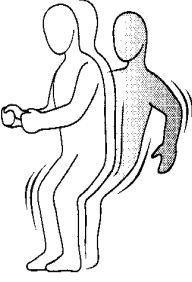
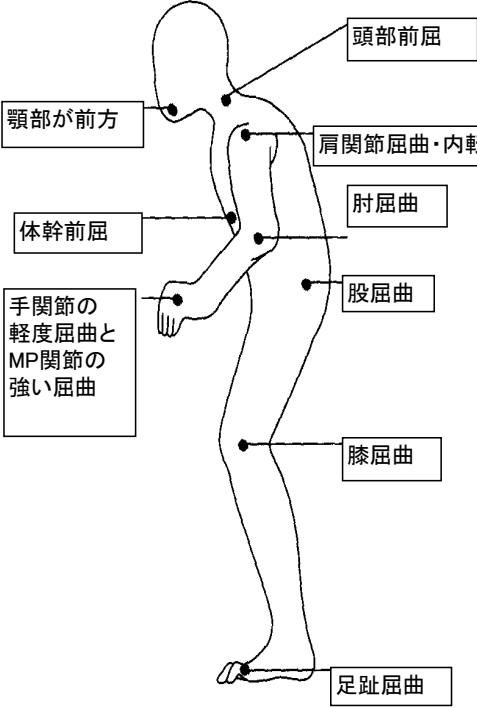


パーキンソン病におけるHoehn-Yahrの分類

<p>I</p>  <p>片側みの障害で機能低下はあっても軽微</p>	<p>IV</p>  <p>症状は進行して、重症な機能障害を呈する。歩行と起立時には介助を必要としないが、ADLの場面で一部介助を要する</p>
<p>II</p>  <p>両側性または体幹の障害で、平衡障害はない</p>	<p>V</p>  <p>全面介助を必要とし臥床状態</p>
<p>III</p>  <p>姿勢反射障害の初期の徴候が見られ方向転換や閉脚、閉眼起立時に押された場合不安定となる。身体機能は軽度から中等度に低下するが、仕事によっては労働可能。ADLは介助を必要としない。</p>	<p>*変形・拘縮を起こしやすい部位</p>  <ul style="list-style-type: none"> 頭部前屈 顎部が前方 肩関節屈曲・内転 肘屈曲 体幹前屈 手関節の軽度屈曲とMP関節の強い屈曲 股屈曲 膝屈曲 足趾屈曲